

昭和戦前期の大阪府堺市における和音感教育 1

——音源資料SPレコード『和音感教育の実際』について——

Prewar Kindergarten and Elementary School Music Education in Sakai City, Part I :
The SP Record “Facts of Music Auditory Training”

菅 道 子

Michiko KAN

(音楽教室)

2010年10月14日受理

はじめに

国民学校の時代、唱歌は芸能科音楽となり、歌唱の他鑑賞と器楽の領域が加わるとともに、「聴音ノ練習ヲ重ンジ(中略)和音等ニ対シ鋭敏ナル聴覚ノ育成ニカムベシ」(国民学校令施行規則第14条)として和音感教育が重視されることとなった。読譜力、視唱力、和音感の育成などのソルフェージュ教育が日本の初等教育の中に位置づけられたのは、画期的なことであった。しかし、その一方で、和音感教育は国防教育の一手段として推進され、軍事目的に利用されてきたことも指摘されてきた¹。音楽内容の発展とともに政治的軍事的手段の象徴であった和音感教育は、戦前・戦時の学校音楽教育の特質を探る上で重要なトピックである。その実態については近年本多佐保美²や上田誠治³等の研究によって明らかにされてきている。

また、国民学校期以前の先駆的な実践については、東京の小石川区金富尋常小学校訓導佐々木幸徳、渋谷区本町尋常小学校訓導酒田富治、大阪府堺市視学佐藤吉五郎らの名があげられていた⁴。木村信之は佐々木基之(幸徳)、佐藤吉五郎にインタビュー調査をしており、佐々木については「和音感教育と合唱指導の先駆」、佐藤については「堺市における和音感教育の推進」として紹介している⁵。さらに、鈴木慎一郎は、佐藤吉五郎が岡山女子師範学校時代の階名唱教育に対する問題意識から堺市での音感教育に着手したこと、またドイツ音名を使用し、方法として和音訓練だけでなく、歌や遊びも取り入れていったことを音源資料も含めて分析している⁶。

しかし、国民学校以前の、佐々木や佐藤、酒田等の和音感教育の実践の詳細については今後の研究課題となっている。その実践解明に際し、当時録音された音源の資料は、実際にそこで鳴った「音」や「発言」を再現することのできる貴重なものである。1930年代はメディアの大衆化が進んだ時代といわれ、SPレコードやラジオ放送など音によるメディアの普及と発展のめざましい時代でもあった。また戦時体制下において映画などの映像メディアも戦意高揚の道具立てとして活

用されており、その緊迫した時世を反映した教育の一端を「音」のみならず「映像」によっても知ることが可能である。

1930年代に全国に先駆けて実践されていた大阪府堺市の和音感教育は、そうした戦意高揚、国防教育の宣伝普及としても最適なものとして「音」や「映像」の記録がとられた。その一つとして1940年に日本ビクターより発売されたのがSPレコード『和音感教育の実際』(A-3085~3089 5枚組)であった。これはレコード用の録音であるから、ごく普通の日常の授業とは異なるものであろう。しかし、実際に佐藤吉五郎の指導のもとに、堺市の幼稚園児と小学校五年児童が独逸音名や抽出和音唱をしている記録であり、実際の音楽授業の一場面を聴くことのできる音源である。

そこで本稿では、このSPレコードの音源を昭和戦前期の和音感教育の実際を示す手掛かりの資料の一つとして取り上げ、堺市の視学であった佐藤吉五郎と彼の取組みについて概観した後、SPレコードの音源を再録する。音源資料は筆者が2007年に古本屋で購入し所蔵しているものである。

1. 佐藤吉五郎と大阪府堺市の和音感教育

堺市の和音感教育を開始したのは、1934(S 9)年~1943(S 13)年まで堺市の視学を務めた佐藤吉五郎(1902(M 35)~1991(H 3))であった。佐藤は1922(T 11)年に秋田県師範学校を卒業後、東京音楽学校の甲種師範学科に進み、1926(T 15)年に卒業した。同年岡山県女子師範学校教諭となった後、1934(S 9)年大阪府堺市音楽指導員に転出、兼任で堺市立高等女学校教諭となった。この時期、前述の佐々木幸徳の和音感教育の実践を見て衝撃を受けたことがきっかけとなり⁷、1937(S 12)年の4月より、堺市の20校の小学校、5園の幼稚園において和音感教育を実施することとなった⁸。

実施にあたっては音楽の研究主任を置き、第3学年以下の担任全員に音楽授業を受け持ってもらう体制をとった⁹。また、特に幼稚園では、園長以外の教員には

音楽の新しい遊戯の考案を課し、毎週実地教育を公開するという形で研究をスタートさせた。佐藤は「私の内弟子に学校教育の先発隊としてのいろいろの理論を実際化して研究し、授業の具体化、興味化の方法としては幼稚園の研究成果をあて、一般小学校には、それらのうちもっとも簡単で効果的な方法を摘出して実施した」と述べており¹⁰、具体的な授業の内容方法について研究したのは幼稚園の保姆資格をもつ教員たちであった。またそこで開発した教具や指導法の優れたものを小学校でも実施するようになっていた。

その時に採った和音感教育実施の方針は以下の通りであった¹¹。

- ①ドレミ式移動階名唱法を全廃する
- ②新たに独逸音名(固定音名唱)を採用する
- ③和音聴音を課す
- ④分割唱を課す
- ⑤カデンツ訓練を行う
- ⑥リズム訓練を励行する
- ⑦歌曲は当分聴唱法を採用する

国民学校が施行されると独逸音名による固定音名唱はイロハ音名に変更になり、音名唱法、和音聴音や読譜の指導が実施されていった。

2. SPレコード『和音感教育の実際』(日本ビクター)の記録

日本ビクターより1940年に発売されたSPレコード『和音感教育の実際』(A3085～3092)はA、B両面に録音された4枚組のレコードである(写真1～3参照)。解説もあったと考えられるが、筆者所蔵の音源には付いていなかった。

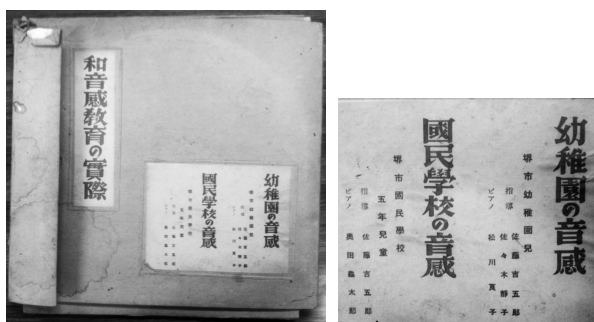


写真1 ジャケット



写真2 幼稚園の音感(一)



写真3 国民学校の音感(一)

2-1 SPレコード「幼稚園の音感」(一)、(二)ーハルノノアソビー の録音

A3085～3087のレコード盤ラベルには「和音感教育の実際 幼稚園の音感」(一)、(二)とタイトルがあり、さらに「ーハルノノアソビー」の副題が付いている。参加児童は「堺市幼稚園児」とあるが、記録の場所は堺市立第一幼稚園である。また指導には佐藤吉五郎と当時第一幼稚園の園長であった佐々木静子の名前が記載されている。ピアノの松川良子の所属は現在のところ不明である。

このレコードでは、最初にピアノで弾かれる音を見童が独逸音名で答え、次にお日様(DGH)、風(FGH)、雨(GHDF)、ツクシ(CEG)、スマレ(HDG)、タンポポ(CFA)というように、生活の中にある自然や植物と和音を対応させ、見童たちに確認している。そして童謡の《春よこい》を歌った後、それぞれの和音になるとそれに対応するお日様、風などに担当となった見童たちが前へ出てくるというように、遊戯活動のようにして和音を記憶する活動になっている。

録音記録は以下の通り。()内の文章は筆者の補足説明文である。

日本ビクター A3085 幼稚園の音感(一)ーハルノノアソビー
堺市幼稚園 指導：佐藤吉五郎・佐々木静子 ピアノ：松川良子

教師：さあ、みんなお手々を出してごらん。元気に指のお家の唱歌を歌いましょう。

♪《五指に依る音名練習唱歌》 作詞・作曲 佐藤吉五郎

これはわたしの	父さん	F	さん
これはわたしの	母さん	D	さん
これはわたしの	兄さん	H	さん
これはわたしの	姉さん	G	さん

<p>これはわたしの 赤ちゃん E さん みんなわたしのお家のかたよ Cさん、Dさん、Fさん、Aさん、Cさん、Eさん、Gさん みんなわたしのおともだち</p> <p>教 師：そう、今度は先生の弾くピアノの音をみんなで当ててごらん下さい。</p> <p>園児全員：CEG, HDG, CFA(C), GHDF, FAC, DGH, EGC, GCE, FGH, ACF (ピアノで一度和音を弾いた後、子どもたちが一斉に応える)</p> <p>教 師：よろしい。では、キシトオルさん、一人と言ってごらん。</p> <p>園児全員：はい、HDG, FAC, EGC, DGH, GHDF</p> <p>教 師：今度はワタナベタイスケさん</p> <p>園児全員：はい、CEG, CFA(C), GCE, ACF, FGH</p> <p>教 師：そうです。二人とも大変よいお耳ですね。 では、これから春の野原のお遊びをいたしましょうね。</p> <p>園児全員：はい、</p> <p>教 師：CEGは何でしたかしら。</p> <p>園児全員：ツクシ。</p> <p>教 師：CFAは？</p> <p>園児全員：タンポポ</p> <p>教 師：HDGは？</p> <p>園児全員：スマレ</p> <p>教 師：雨は？</p> <p>園児全員：GHDF</p> <p>教 師：子どもは？</p> <p>園児全員：GCE</p> <p>教 師：風は？</p> <p>園児全員：FGH</p> <p>教 師：そうね。</p>	
<p>日本ビクター A3086 幼稚園の音感(二)ーハルノノアソビー 堺市幼稚園 指導：佐藤吉五郎・佐々木静子 ピアノ：松川良子</p> <p>教 師：では、これは何でしょう？</p> <p>園児全員：DGH、お日様。EGC〇〇〇、FACちょうちょ</p> <p>教 師：ACFは何でしたかしら？</p> <p>園児全員：桜の木。</p> <p>教 師：そうね、よく分かりましたね。みんな、冠をつけてご用意ができましたね。</p> <p>園児全員：はい、</p> <p>教 師：早く春がくるように、一度元気よく、〈春よこい〉のお唱歌を歌って春をよびましょう。</p> <p>♪《春よこい》作曲：弘田龍太郎 作詞：相馬御風 春よこい、早くこい 歩きはじめた みいちゃんが 赤い鼻緒のじょじょはいて おんもへ出たいと 待っている</p> <p>春よこい、早くこい お家の前の 桃の木の つばみもみんな ふくらんで はよ咲きたいと 待っている</p> <p>教 師：さあ、音感遊びをいたしましょう 自分の音が鳴ったら、音の名を言って出ていらっしゃいね。</p> <p>園児全員：はい。 (ピアノの和音が鳴った後、お日様グループになっていた児童たちが前へでてくる)</p> <p>DGH お日様。ニコニコニコニコニコニコニコ……</p> <p>FGH 風。ホンノリホ、ホンノリホ、ホンノリホ、ホンノリホ……</p> <p>GHDF 雨。ジャージャージャージャージャージャージャージャー……</p>	

CEG ツクシ

教師：ツクシはしゃがんでいましたが、うんとお手々を伸ばしてだんだん大きくなってきましたね。

園児全員：HDG スミレ

教師：すみれもかわいいお花が咲きましたよ。

園児全員：CFA タンポポ

教師：タンポポのお花もかわいいのが咲きましたね。

2-2 SPレコード「幼稚園の音感」(一)、(二)についての解題

佐藤吉五郎は、堺市での実践を『和音感教育』(三喜堂、1940年)(1941年には国民学校に合わせてイロハ音名に変更し、抽出唱訓練、和音聴音を併用するリズム訓練を加えた改訂版を出している)にまとめて出版している。

SPレコードの内容は一部変更があるものの、「第三篇実際篇」に掲載されている内容と共通の部分が録音されている。

最初に歌われている《五指に依る音名練習唱歌》は作詞・作曲佐藤吉五郎であり、自分の指を使い、その指と音名を関係づけて覚えるための歌になっている。これらの歌を歌えば「直接指に触れて覚えるため、記憶が確実になる」というように¹²、園児たちは直接身体感覚で、五線との関係も含め音名を受けとめることになり、難解なドイツ音名も馴染みやすいものになっていたと考えられる。

《春よこい》を歌ったあとの遊戯あそびは、『和音感教育』では、「小さな庭」という遊戯単元と同一で、その単元をベースにした活動を録音したものである。

レコードでは、DGHの和音はお日様、FGHの和音は風、GHDFの和音は雨、CEGの和音はツクシ、HDGの和音はスミレ、CFAの和音はタンポポというように、生活の中にある自然や植物に和音を対応させその音を記憶し易いよう工夫した設定がなされている。そして、園児たちはそれぞれの役割を担当して遊戯活動をする中で、和音を聴き取っていくという活動である。自然、

植物と和音の直接的な関連性がないことは根本的な課題であるものの、児童の記憶に残りやすいものと結びつけ、音を具体化する方法は興味深い。その他和音が同じようなニュアンスで弾かれてしまっているため、それぞれの特徴を音楽的にイメージして描写すること(例えばサンサンと輝くお日様のまぶしさや明るさ、〈ホンノリホ〉と頬なでる風の流れ、〈ジャージャー〉と強く打ち付ける雨音など)、テンポやフレーズ、奏法を工夫することなど改善の余地が残されている。

2-3 SPレコード「国民学校の音感」(一)～(六)の録音

A3087～3092のレコード盤ラベルには「和音感教育の実際 国民学校の音感」(一)～(六)とあり、幼稚園のような副題は無い。参加児童は「堺市国民学校五年児童」とあり、堺市小学校から5年生の児童から選出され、場所は英彰小学校にて録音されたものである。

(一)A3087では、ピアノで弾かれた和(か)音の音名をドイツ語で答える活動、(二)A3088では、ピアノで弾かれた和音から単音あるいは二音を抽出し、その音を歌う抽出唱の活動、(三)A3089では、三和音の分離唱、(四)A3090では、ハ長調のカデンツ唱とハ長調からヘ長調、ハ長調、ト長調、ハ長調と転調しながらカデンツを唱う活動、(五)A3091では、三部合唱、(六)A3092では、同じく三部合唱を変ロ長調の他、初めてイ短調でも唱う活動、が録音されている。

録音記録は以下の通り。()内の文章は筆者の補足説明文である。

レコード1

日本ビクター A3087国民学校の音感(一)

堺市国民学校五年児童 指導：佐藤吉五郎 ピアノ：奥田亀太郎

教師：これから弾く和(か)音をよく聴いて当ててごらん下さい。はっきり、ゆっくり。(教師がピアノで弾き、園児の声がつづく)

児童全員：HDG、FAC、DGH、CEG、ACF、EGC、HDFG、CEA、EGH、ADF DFisA

教師：今度はマツカワさん一人で言ってごらん下さい。

児童全員：はい、CEG、GHDF、CEG、FAC、CEsG、GBD、FAsC、FAsDes、C、A、F、E

教師：こんな、あわない音でもわかりますか。サトウさん言ってごらん下さい。

児童全員：はい、CDE、FGA、HCD

(ピアノで低音の不協和音がなり、別に単音が弾かれそれをあてる)

児童全員：G、D、Fis、Fis、B(ピアノはC)、C

レコード 2

日本ビクター A3088 国民学校の音感(二) 堺市国民学校五年児童 指導：佐藤吉五郎 ピアノ：奥田亀太郎	
教 師：	次の和(か)音の中から先生の問う音の高さを出してごらんなさい。これを単音抽出唱といいますね。 (ピアノで和音を鳴った後、抽出する音を言い、児童がその音を唱う)
教 師：	(CEGの和音の後)G
児童全員：	G
教 師：	(CFAの和音の後)F
児童全員：	F
教 師：	(HDGの和音の後)H
児童全員：	H
教 師：	(EGCの和音の後)G
児童全員：	G
教 師：	(DGHの和音の後)D
児童全員：	D
教 師：	今度は次の和(か)音の中から二つの単音を一緒に出してごらんなさい。
教 師：	(CEGの和音の後)EG
児童全員：	EG
教 師：	(HDGの和音の後)HD
児童全員：	HD
教 師：	(CFAの和音の後)FA
児童全員：	FA
教 師：	(DGHの和音の後)DH
児童全員：	DH
教 師：	(DFGHの和音の後)FG
児童全員：	FG
教 師：	よく歌えました。和(か)音の中から自由に単音、すなわち一つの音を歌うことができたならば、単音の旋律が歌えます。また二つの単音を同時に正確に歌えるようになりましたならば、その応用問題として二重唱でもできるわけです。一緒に気持ちよく《つゆ草》を歌ってごらんなさい。
♪ 《つゆ草》へ長調 4分の4拍子	
呼べば 春風 そよそよ吹いて	
つくし すいすい ○○○○ ○○○	
一つみつけた スミレを摘めば	
あかいむらさき、春の色	
空は水色 うらうら晴れて	
たどる ○○○○	
○○もあお○	
たもと濡らして 水よく汲めば	
はるかかなたへ ○○○○○	
教 師：	大変よくできました。

レコード 3

日本ビクター A3089 国民学校の音感(三) 堺市国民学校五年児童 指導：佐藤吉五郎 ピアノ：奥田亀太郎	
教 師：	次に《夏の光》を歌いましょう。
♪ 《夏の光》作曲：ホーソン、作詞：二宮龍雄	
四方の山に野に、光かがやき、	
緑さわやかに、夏ははや来ぬ	
露踏み分け行けば、朝風香りて	
見よ青葉のにおい	
空を流るる、せきれい翼ひたすや	
せせらぎ水も澄みて 涼しき夏のすがたよ	
さやけき夏の光	
教 師：	すばらしい。単音でも三重音でも自由に分離することができますから、三つの音でも分離することができるはずです。 (教師が和音を言った後、ピアノを鳴らし、児童が分離唱をしている)
教 師：	CEG
児童全員：	(ピアノの和音の後)CEG
教 師：	CFA
児童全員：	(ピアノの和音の後)CFA
教 師：	HDG
児童全員：	(ピアノの和音の後)HDG
教 師：	FGH
児童全員：	(ピアノの和音の後)FGH
教 師：	よろしい。

レコード 4

日本ビクター A3090 国民学校の音感(四) 堺市国民学校五年児童 指導：佐藤吉五郎 ピアノ：奥田亀太郎	
教 師	：今度は先生の言う和(か)音の名前をよく聴いて、カデンツ、すなわち終止形合唱をしてもらなさい。CEG、CFA、CEG、HDG、CEG。
(ピアノの和音の後に児童が唱う)	
児童全員：CEG、CFA、CEG、HDG、CEG	
教 師	：次にCEG、CFA、CEG、HDG、CEG、EGC、FAC、EGC、DGH、EGC、CEG、CFA、CEG
(ピアノの和音の後に児童が唱う)	
児童：CEG、CFA、CEG、HDG、CEG、EGC、FAC、EGC、DGH、EGC、CEG、CFA、CEG	
教 師	：それではハ長調よりへ長調へ行って、ハ長調へ帰ってト長調へ行ってまたハ長調に帰る転調の練習をいたしましょう。CEG、CFA、CEG、HDG、CEG、EGC、FAC、FBD、FAC、EGC、DGE、DFisA、DGH、EGC、CEG、CFA、CEG
(ピアノの和音の少し後に三部に分かれて和音唱をしている)	
児童全員：CEG、CFA、CEG、HDG、CEG、EGC、FAC、FBD、FAC、EGC、DGH、DFisA、DGH、EGC、CEG、CFA、CEG	

レコード 5

日本ビクター A3091 国民学校の音感(五) 堺市国民学校五年児童 指導：佐藤吉五郎 ピアノ：奥田亀太郎	
教師：三部合唱とは以上のカデンツのリズムの変化に過ぎませんから、きっと三重唱でも楽にできるはずです。《祈りの歌》を歌いましょう。よく意味を考えながら唱いなさい。	
♪ 《祈りの歌》三部合唱	
君のために、 命ささげて	
守る○○○○ ○○○	
○○○○ ○○○○	
○○○○○○○○ ○○○○○○	
○○○○○○○○○○○○	
○○ ○○○○ ○○○○ ○○○○ ○○	
○○○○ ○○○ ○○○○ ○○ ○○○ ○	
○○○ ○○○ ○○○○ ○○○ ○○○	

レコード 6

日本ビクター A3092 国民学校の音感(六) 堺市国民学校五年児童 指導：佐藤吉五郎 ピアノ：奥田亀太郎	
教 師	：変ロ長調の《小川のささやき》という三重唱を歌いましょう。
♪ 《小川のささやき》	
花を浮かべて 流る小川よ	
小鮎住ませて 流る小川よ	
朝夕つきず 夜昼おかず、	
流る水よ 何をか語る	
休まずふまず	
遊べよ励め つとめよ励め	
学べよ励め つとめよ励め	
教 師	：今度は暗い感じのする短音階のカデンツを合唱してもらなさい。今までのものとよほど気持ちが変わります。
CEA、DFA、CEA、HEGis、CEA	
(ピアノの和音の後に和音唱をする)	
児童全員：CEA、DFA、CEA、HEGis、CEA	
教 師	：それでは最後に、イ調短音階の《春の夕暮れ》の歌を歌って終わりにします。
♪ 《春の夕暮れ》	
はるかに暮れゆく 山の端より	
ねぐらを求めて 森へ帰る	
静かにせまる 宵闇や	
はるかに暮れゆく 並木○○○	

2-4 SPレコード「国民学校の音感」(1)～(6)についての 解題

「国民学校の音感」(1)～(6)には、「幼稚園の音感」のような遊戯的な活動は無い。録音内容は、音名当て、和音抽出唱、終止形合唱(カデンツ)、転調を加えた終止形合唱などの音楽の基礎訓練的な内容と二部、三部の合唱が行われている。三部のカデンツをハ長調だけでなく、ヘ長調とト長調にも転調しながら和音唱していること、また長調だけでなく短調についてもカデンツを取り扱っているのは注目すべき点である。和声感が身についていないと音名唱法を採用して転調したり、短調のカデンツを歌うことは難しい。『和音感教育』に掲載されている多くの譜例はハ長調であった。また、佐藤が考案した和音笛もハ長調のものであり、実際にはハ長調を中心にした授業が展開されたと推測される。しかし、指導の方向性として音名唱法と和音唱の訓練によってあらゆる調性を感じ、歌えるようにしたいとの佐藤の意図がこれらの転調と短調カデンツに示されているのだろう。

合唱曲については、二部合唱では《つゆ草》(ヘ長調)、《夏の光》(ヘ長調)、三部合唱では《祈りの歌》(ハ長調)、《小川のささやき》(変ロ長調)、《春の夕暮れ》(イ短調)が歌われている。1940年に録音されたこの曲は自然を歌ったものが多いことも特徴的である。

また、《祈りの歌》はカデンツを基礎にしていることもあるのか、賛美歌を想起させる響きでもある。しかし、歌詞内容は「君のために、命ささげて」と国防のための命の犠牲が唱われ、戦時色が濃く出されるものもあった。

まとめにかえて

このSPレコードがどの程度販売されたのかは不明である。しかし、山口保治が『国民学校と家庭に於ける聴覚訓練』の中でこのレコードについて「佐藤吉五郎が指導して堺市の児童が吹き込んだもので独逸音名を用ひて唱つてゐる。幼稚園児のものの方が参考になる点が多いと思ふ」と言及しているように¹³、音感教育に関心のある者たちにとっては貴重な音源資料であったと考えられる。また山口は「全体の唱ふ声は美しいとは云はれない」と述べている¹⁴。しかし、実際音源を聴いてみると国民学校期の範唱レコードの多くが地声で歌っているのに対し、この音源では裏声を使った発声で歌われており、三部の和声の響きを作り出そうとしている。一方、堺市の音感教育は、冒頭に述べたように、戦意高揚国防教育の一翼を担うものとしても期待されていたことは事実である¹⁵。しかし、音源を聴いて見るならば、幼稚園では遊戯活動の中で音楽を学ぶ工夫がなされ、国民学校(録音時は尋常小学校)でも二部、三部の和声を目指した合唱が行われており、音楽

的な活動場面のあったことを確認することができる。

しかし、そのことを翻って考えるならば、戦時体制下の和音感教育は、音楽教育の理念とともに国防教育の理念を並立し、その政治的軍事的プロパガンダとしての機能を、子どもや教師にとって矛盾ないものとして絡み入れながら展開していたということである。1940年制作のSPレコードは、日々の授業の中にそうした危うさが生まれることを、「音」の記録として現代に示している。

本稿は、平成21～23年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「課題番号：21530934 研究課題名 声とモノから探る戦時期の音楽教育実践史研究」の研究成果の一部である。

注

- 1 河口道朗「音感教育の特徴と変質過程」『音楽教育論叢 第II巻 音楽と近代教育』開成出版、2005年、pp.167-195
- 2 本多佐保美他『音楽教育史研究における制度・教師・学習者の関係性の探究』(H13～15年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1)研究)成果報告書)2004年
- 3 上田誠治「戦争と音感の社会史—国民学校と盲教育界を事例として」戸ノ下達也『総力戦と音楽文化 音と声の戦争』青弓社、2008年、pp.159-195。
- 4 河口道朗「音感教育の特徴と変質過程」『音楽教育論叢 第II巻 音楽と近代教育』開成出版、2005年、pp.167-195、山下薫子「音感教育の功罪」河口道朗監修『音楽教育論叢 第I巻 音楽の思想と教育』開成出版、2005年、pp.208-224。
- 5 木村信之「佐々木基之」「佐藤吉五郎」『音楽教育の証言者たち(上)戦前を中心に』音楽之友社、1986年、pp.167-186、pp.187-204
- 6 鈴木慎一朗「佐藤吉五郎による幼児への和音感教育実践：岡山県女子師範学校で生まれた課題意識から」(日本音楽教育学会第38回全国大会口頭発表レジュメ、2007年11月10日、於：岐阜大学)。
- 7 佐藤吉五郎「音感教育四十年の回顧」『絶対音感による音楽教育法』柏苑社、1973年 p.15。
- 8 佐藤吉五郎「和音感教育実施成績報告」『教育音楽』1月号、日本教育音楽協会発行、1940年1月、pp.64-65。
- 9 佐藤吉五郎『和音を基調とする総合音楽教育法』音楽之友社、1958年、p.17。
- 10 同上、佐藤、p.18。
- 11 前掲(注7)、佐藤「音感教育四十年の回顧」pp.221-222。
- 12 佐藤吉五郎『和音感教育』三喜堂、1940年、p.131。
- 13 山口保治『国民学校と家庭に於ける聴覚訓練』(照林堂書店、1942年、p.32)本資料については、鈴木慎一朗氏のレジュメより重引(注6を参照)。
- 14 同上、鈴木慎一朗氏レジュメより重引。(注6を参照)。
- 15 『堺市史続編』には「戦時体制の進展とともに、和音感教育も耳にたいする訓練の効用が、国防上・軍事上の見地からも注目されるに至った」と述べられている(小葉田淳編集代表『堺市史続編』第2巻、堺市役所発行、1971年、pp.922-925)。